

岩手県 岩手高齢協グループホーム ほっとくりやがわ

(部分は外部評価との共通評価項目です)

自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	8月1日より管理者が変わっているが、「なごめる」・「ほっとする」・「その人らしく」を変わることなく、スタッフが毎日の支援の中で行っている。	施設内に掲示している。 重要事項にも載せている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	利用者様一人ずつ、その人らしさを引き出せるように、ミーティング・カンファレンスなどで話し合いケアの統一を行っている。	ミーティングでは、利用者様の表情と行動まで細かく話し合い出来ている。出勤時に理念を自分に言い聞かせ、勤務に入るよう努めている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	運営推進会議を活用して、地域の方々に出来るだけ参加していただき、当事業所の取り組みの内容や今後の活動について意見交換している。	○ 利用者様にも書類などで詳しく説明し、理解してもらえるように分かりやすく、話をするように努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	日常的な挨拶・笑顔を忘れず、いつでも立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努めている。	○ 地域の方々に、職員・利用者様もなじみになれるように、町内会の行事にも努めて参加するようにしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の行事、早朝の一斉清掃などに参加し交流をはかっている。	今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	岩手高齢協の取り組み事業の中に、認知症ケア家族の会に、参加するよう声掛けしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで話し合いをして職員全員で取り組んでいる。		取り組んでいる内容を記録として残しており、改善点が見えるようにしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回開催している。地域・家族・包括・消防の方々に参加していただき、事業所としての課題・問題点、行事の取り組み、今後の予定などを報告し、それに対する意見をいただいている。		運営推進会議を通して包括支援センター・民生委員・消防団員との連携を今後も深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス向上に関して、職員同士で日々話し合い取り組んでいるが、市担当者との話し合いの場はほとんど無かった。	○	今後は市担当者との意見交換をしていく場を持ちたい。 (地域運営推進会議等への呼びかけ)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、該当者はいないが、福祉部会・認知症家族の会などを活用し、必要時関係者と話し合い活用できるようにしていきたい。	○	今以上に勉強する機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いままで研修への参加は無かったが、日頃からスタッフ一人ひとりが虐待のない現場を作るよう意識をもって働いている。		今年度中、研修に参加予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方の不安や疑問点に関して十分な説明を行い、入所・退所の同意書を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者様の声に耳を傾け不満や苦情に関して、職員同士で話し合いを行っている。又、必要時には家族の方々の協力を頂いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、定期的にその方の暮らしぶりや状況を報告している。変化時にはその都度、電話にて連絡を個々に行っている。又、必要時、文書・運営推進会議を通し報告している。	今後も密に家族とのつながりを持って行きたい。広報誌に写真つきでお知らせしている。(3ヶ月に1度)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時出来るだけ家族様の話しを聞く雰囲気作りに努めている。運営推進会議に出された意見等は、ミーティング等でスタッフに周知している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体ミーティングを開催し意見交換を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全職員協力し合って、又、必要時には職員の数を増やしてケアにあたっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日々の生活の中で、なじみの関係は重要視している。職員の移動は必要最低限に抑えられている。	○ 新採用の固定化に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修、勉強会に参加できている。参加後も情報の共有が出来ている。昨年は海外研修を実施し、報告会を行った。	○ 今後も研修には積極的に参加させていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、ブロック会・定例会(各月1回)において情報収集し、サービス向上に努めている。昨年は、ほっともとみや・ほっとくりやがわ間で交流研修を行った。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	新年会・忘年会・食事会を行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会への参加等、月1回の全体ミーティングで各職員の要望を聞く機会を設けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	以前グループホームに抵抗感を持っていた方がおり、遊びに来て入所している方々と交流をもつ機会を設けた経緯がある。今年度は無い。	今後も要望があれば機会を設けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記のような対応を行っている。又、電話での相談と、見学の受け入れもしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携をとり、情報提供しながら対応している。随時、見学・相談を受け付けている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し期間を作り見学からはじめ、施設の雰囲気に馴染めるようになってから入所するなどの対応をしている。	○	新入所者を迎えた時は、ミーティングを頻回にもち、本人の不安を早めに改善してあげるよう努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で生きがいを持てるよう、茶碗拭き・洗濯物たみ・盛り付けなどの家事を手伝ってもらったり、話を聞いてあげたりしている。時には職員の話もきいてもらって、励まされたりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事・誕生会などに参加していただいている。又、体調の変化を電話にて伝え、可能であれば受診に同行していただいたり、職員と家族の連携を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事などに出来るだけ参加していただけるよう、声掛けをしている。又、日用品・衣類など依頼をし、面会の機会を持てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やご近所の方々の面会、法事、お彼岸の墓参りが出来るよう、家族の方々に協力をお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの役割を把握して支援している。言葉の行き違いでトラブルにならないように、時にはスタッフが間に入ってより良い関係を築けるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された方でも面会に来ていただいたり、家族様も来て頂ける様連絡している。	○	H20年4月、利用者様の誕生日に以前入所されていた夫とその娘さんが来所して下さり、お祝いをした。今後も機会があれば関係を持って行きたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスなど機会のあるごとに利用者の状況に合わせて、時に寄り添い本人の意向を把握するよう努めている。	○	今後もカンファレンスを通して個々の情報を共有し、個別ケアに努めて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	近親者などすでに亡くなられている方も多いが遠方の親族の方々からの情報を頂き把握に努めている。	○	記録が不足している部分もあるが、できる限り情報を把握しケアに活かして行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の会話・表情などから状態の変化を観察している。		申し送りノート、チャートなど記録を行いスタッフ間で共有している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング・カンファレンスでモニタリングを行い、必要に応じ家族様とも話し合い介護計画に役立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じ、主治医・訪看・家族様と連携を図り、随時プランの見直しを行っている。	○	今後も決められたミーティング・カンファレンス以外にも随時ミーティングを開催し、利用者の安定・維持に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用、チャートの記録、カンファレンスでの情報収集をしプランに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ヘルパー講座の受講生の実習、又は卒業生のボランティア活動を受け入れ、利用者様との関わりを持って頂いている。	○	入所者様の混乱を招かないよう、事前に目的の説明や実習生の自己紹介をしていただく場を設けている。今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議・地域の各行事を通し民生委員や消防団、警察の方々に協力していただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態の変化に応じて他の施設サービスの利用を検討し、地域のケアマネジャーとの連携を図り支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議に参加して頂いて、事故・災害などの相談をしている。	○	今後は要護支援者リストに載せていただけるかの相談をしていきたい。(盛岡市)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関であるゆとりが丘クリニックでのミーティングを開催。1人ひとりにあった医療を受けられるよう支援している。	○	ゆとりが丘訪問看護ステーション～緊急時に対応して頂いている。今後も継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃から訪看を通じてかかりつけ医に相談している。必要時、このクリニックのDrと相談・助言を頂いている。		必要時、このクリニックに受診し薬の服薬について相談している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約している。日常の健康管理をしていただいている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院中、不安にならないよう面会に行っている。家族の方を通して情報を頂き相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針をもとに主治医・訪看・家族・本人・スタッフと話し合う。その都度、同意書をいただいている。	○	終末期のあり方、ケアの方法について勉強会をしていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医との相談を行う中で、出来る事と出来ない事を見極め、家族様も含め相談していく。		H18年より、訪看・かかりつけ医との連携を行い体制を整えている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に家族様から情報を収集し、なじみの物品(家具・写真・衣類)を持ち込んでいる。なじみの関係を築けるようスタッフも努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない 個人情報 は人目につかないところに保管している。外部に対してのプライバシーの保護は徹底している。		スタッフ、実習生の秘密保持の同意書をいただいている。
51	<input type="checkbox"/> 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている 一人ひとりにあった対応を行い、同じ目線で声掛けをし、本人の意思を尊重しながら支援している。		
52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している 利用者のその日の訴えを受容し、その人のペースに合わせた対応を心掛け支援している。		家事・入浴・食事など何事にも本人の意思を尊重し強制していない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<input type="checkbox"/> 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている 本人・家族様の意向を聴き、好みに合った髪型になるよう支援している。また、要望があれば家族様同行にて望みの店にいけるよう支援している。		2ヶ月に1回程度床屋さんに来所して散髪していただいている。
54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている 材料切りや盛り付け、茶碗拭きなどは職員と協力し助け合っている。	○	1週間毎のメニューを事前に作成しているが、できればその日その日の好みのメニューを取り入れた食事作りをしていきたい。
55	<input type="checkbox"/> 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している 現在、飲酒・喫煙者は居ません。普段の会話から好みの物、又は季節の食べ物などはメニューに取り入れている。		春 山菜 夏 冷やし中華・そうめん 秋 栗・きのこご飯 冬 鍋物・すきやき など。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を元に一人ひとりのパターンにあった声かけ介助を行っている。又、必要時以外はオムツなどの使用を控えている。 必要時・・・排便時、便の状態が悪い場合など		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日声かけを行い希望される方は入浴している。一対一での対応でコミュニケーションを図り関係を深めている。入浴後は皆さん笑顔になっている。		業務日誌により入浴の確認をし、毎日の声かけを行っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて眠る時間の誘導、声掛けを行っている。眠れない時などは一緒に過ごしたり、ゆたんぽなど活用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔行ってきた事(趣味)を行うことは難しくなっているが、日常生活で行っている事(茶碗拭き・洗濯物たたみ・掃除)などを通し集団生活の中で役割をもって頂いている。又、レクリエーション活動(フーセンバレー・歌・散歩・会話)を通し笑顔を引き出している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金を持っている人はいないが、外出時などに立て替え金ではあるが職員と一緒に、お土産などの買い物をして楽しんでいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在歩行困難な方もいるが、車椅子などでスロープまでの気分転換をしている。又、買物や地域の行事に参加している。その他、個々の希望に応じ、職員付き添いで出来る限り時間に関係なく散歩している。	○	事故の無いよう安全な外出を支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域推進会議での行事計画書を家族の方々に報告しており、季節に応じて外出する機会を作り支援している。	○	今まで住んでいた家に連れて行ってあげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在自分から電話をする方はいないが、家族(親戚)からかかって来た場合には、必ずご本人と会話をして頂くようにしている。手紙の場合は本人家族の了解を得て一緒に読むなどの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来て頂けるように声がけしている。又、訪問の際は限られたスペースではあるが、畳みスペース・各部屋などで過ごせるよう環境作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在対象者はいない。又、身体拘束にならないようミーティング・カンファレンスなどで対応について話し合っている。言葉での拘束にも注意を払っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	スタッフ同士常に声を掛け合い所在確認を行っている。出入り口にはセンサーを使用し方が一に備えている。	○	センサーにマンネリ化せず、今後も安全に心掛けて行く。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は各職員連携しそれとなく所在確認をしている。夜間においては1時間毎の巡視を行っている。		所在確認チェック表の活用。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品に関しては入所時に持ち物チェックしている。		ハイターなど薬品類に関しては手の届かない所に保管している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を活用し対策を考え取り組んでいる。		H21年1月1日より、新様式作成。取り組み開始。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習をそれぞれが受けている。	○	今後は定期的にそういう場を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年二回行っている。その際には近所の方や民生委員の方々に協力をお願いし参加して頂いている。	○	避難場所の確保は出来ているが今後は避難場所での必要物品(食事・オムツ類・個人情報の防災カードの作成)の検討をしていきたい。 夜間の訓練も消防署と連携し計画・実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ミーティング・カンファレンスを行っている。又、必要時には家族の方々にも参加して頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見については、日々の申し送りを通し共有している。又、必要時訪看の協力を得ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の説明書に目を通し、用法や用量について確認し誤薬をしないよう気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自力排便が困難な利用者にはDrの指示のもと下剤使用している。		施設内の廊下を歩いていただき排便を促している。 繊維質を多く含む食事の提供。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛け誘導、介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じ食事量・質などを変え対応している。	○	水分チェック表を活用し水分量の把握をしている。今後は栄養士の指導を受けていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	11月27日 ブロック会での感染症の研修に参加している。現在は、外部者に対して手洗い・うがいをお願いしている。		職員・利用者様全員インフルエンザ予防接種の実施を行った。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・キッチン・シンク内の消毒。フキンの消毒も毎日行っている。		食材は、あまり買いだめしないよう努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇などをおき、親しみやすく工夫をしている。玄関周りの整理整頓に努めている。	○	今後も継続していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるように花や絵、その時々の方々の写真などを目線に飾り、和やかな雰囲気作りをしている。	○	照明を明るくし雰囲気作りを努めている。今後はカーテンなども変えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、食席の工夫、畳みスペースなど居心地良く過ごせるよう心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれなじみの物を持ち込み、安心して過ごせるよう支援している。		その都度家族の方々と相談し雰囲気作りに努めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行っている。掃除の際や、匂いが気になる場合は窓を開け対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手摺を設置している。又、中央トイレには利用者様に合わせアームレストを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	レベルに応じて必要な場合はトイレに近い部屋を提供している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節により、建物の目の前にある桜の木、栗の木などで観賞したりしている		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎日お風呂にお誘いしています。

・明るく、楽しく、健やかに過ごしていただけるよう、『なごめる』・『ほっとできる』・『その人らしく』をモットーとしております。